

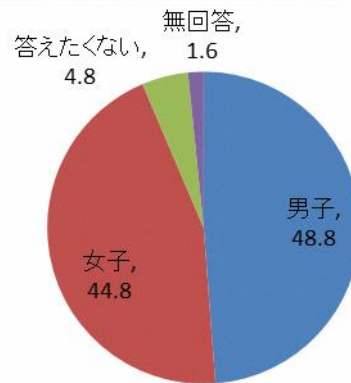
平群町中学生アンケート調査の結果

■実施方法

令和3年12月に、平群町立平群中学校の2年生生徒125名に対して、中学校の協力を得てアンケート配布および回収を行った。

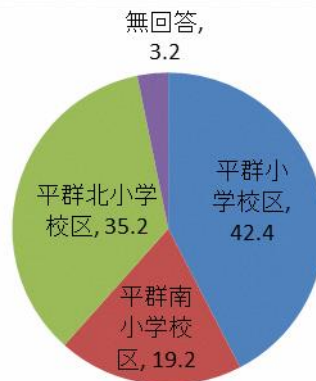
設問1 あなたの性別を教えてください。 <1つに○印>

総数	125	100.0%
男性	61	48.8%
女性	56	44.8%
答えたくない	6	4.8%
無回答	2	1.6%



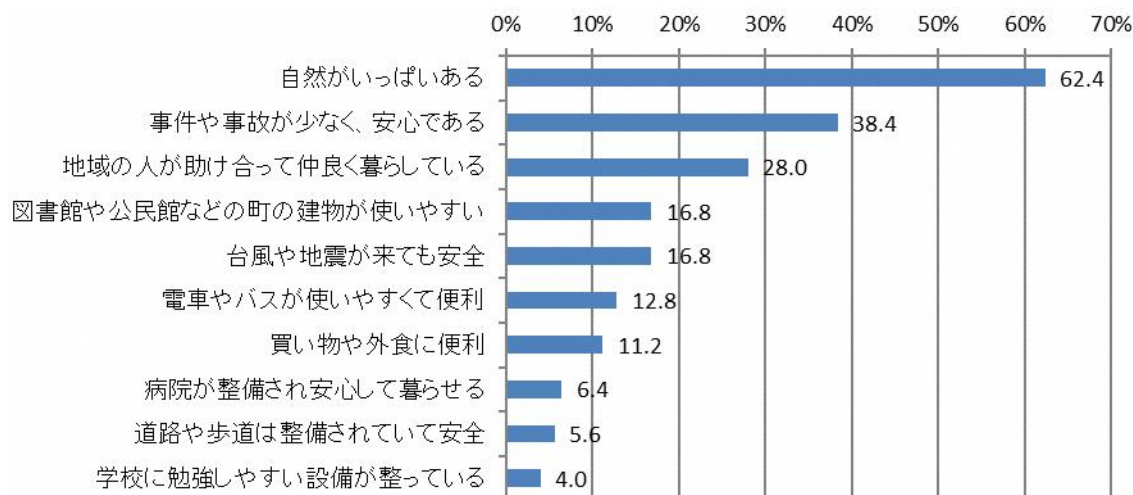
設問2 あなたが住んでいる小学校区を教えてください。 <1つに○印>

総数	125	100.0%
平群小学校区	53	42.4%
平群南小学校区	24	19.2%
平群北小学校区	44	35.2%
無回答	4	3.2%



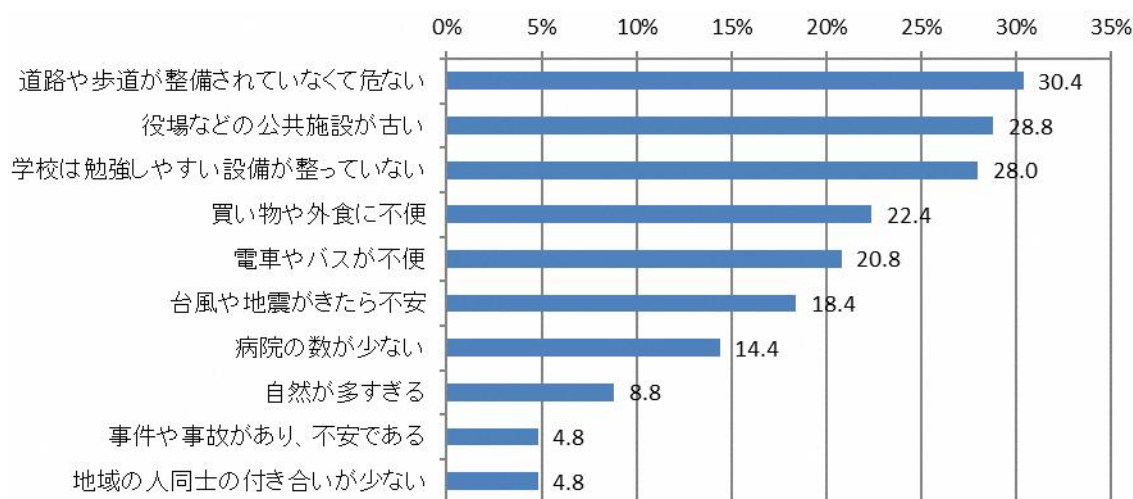
設問3 平群町の良いところを教えてください。 < 3つまで○印 >

「自然がいっぱいある」が最も高く62.4%となった。次いで「事件や事故が少なく、安心である」(38.4%)「地域の人
が助け合って仲良く暮らしている」(28.0%)が高い。



設問4 平群町の良くないところや不足しているところを教えてください。 < 3つまで○印 >

「道路や歩道が整備されていなくて危ない」が最も高く30.4%となった。次いで「役場などの公共施設が古い」
(28.8%)「学校は勉強しやすい設備が整っていない」(28.0%)が高い。



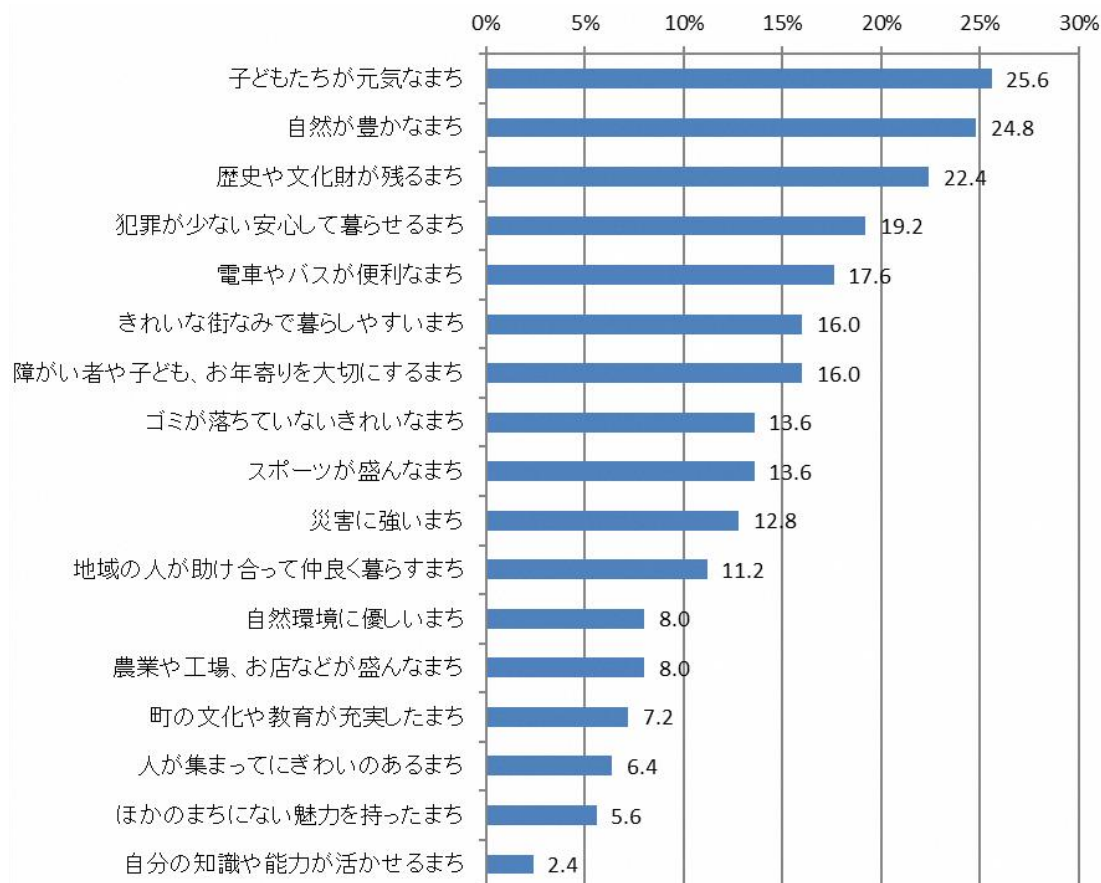
設問5 平群町がどんな町か紹介してください。 <自由記述>

■一部抜粋

- ・自然があり、歩いてコンビニなどにも行きやすい
- ・自然に囲まれていて自然と触れ合える町
- ・自然が沢山あり災害の少ないまち。高齢者が多いまち
- ・キレイな街並みで暮らしやすいまち
- ・田舎の町。高齢者が多い町。坂が多い町
- ・平群町は自然がきれいな町ですが、子ども達が遊ぶ場所が少ないです
- ・事故が少なく優しいまち
- ・台風が来ても警報がこないが、特に何も無い町
- ・住んでる人が優しいまち
- ・買い物や電車などがあるから便利な町です
- ・古い建物が多い町、整備されてない道が多い町、買い物が不便な町
- ・娯楽施設が少ない。大規模なお祭りや行事が少ない。給食がとてもおいしい
- ・中学校が古い町
- ・古い建物を新しくしてるけど道路整備や公園の遊具が新しくなっていない
- ・自然いっぱい安心なまち。警報がでない
- ・360度山が広がるまち
- ・自然が豊かで楽しく笑顔溢れる町
- ・坂が多くてトレーニングに向いてる
- ・畑が多いまち
- ・安心できる温かいまち
- ・平和なまち
- ・静かで過ごしやすい町
- ・穏やかで優しいまち
- ・平群駅周辺だけが栄えている
- ・昔の遺産がある
- ・特産物が多い町
- ・学校の設備を直さない町

設問6 これからの平群町はどのようなまちになると良いと思いますか。 <3つまで○印>

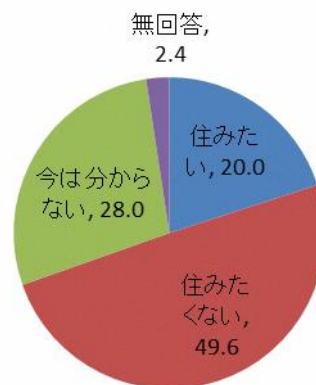
「子どもたちが元気なまち」が最も高く26.5%となった。次いで「自然が豊かなまち」(24.8%)「歴史や文化財が残るまち」(22.4%)が高い。



設問 7 あなたは大人になったら平群町に住みたいと思いますか？ < 1つに○印 >

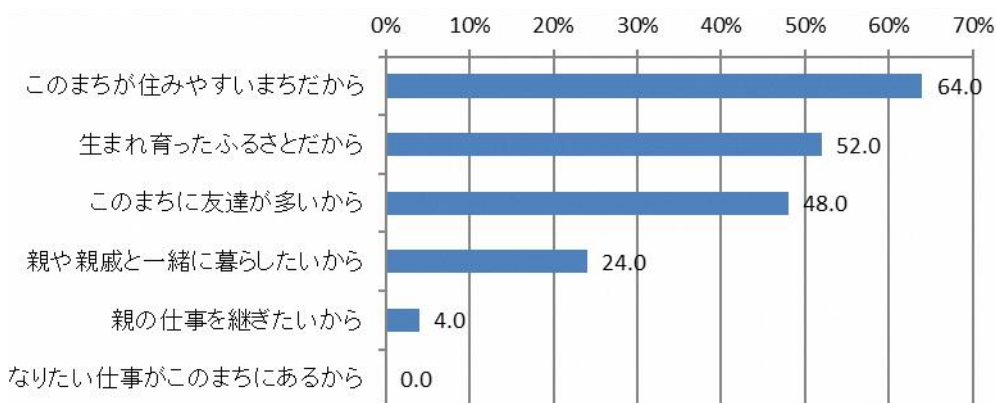
「住みたくない」が最も高く 49.6%となり、「住みたい」(20.0%)を上回った。

総数	125	100.0%
住みたい	25	20.0%
住みたくない	62	49.6%
今は分からない	35	28.0%
無回答	3	2.4%



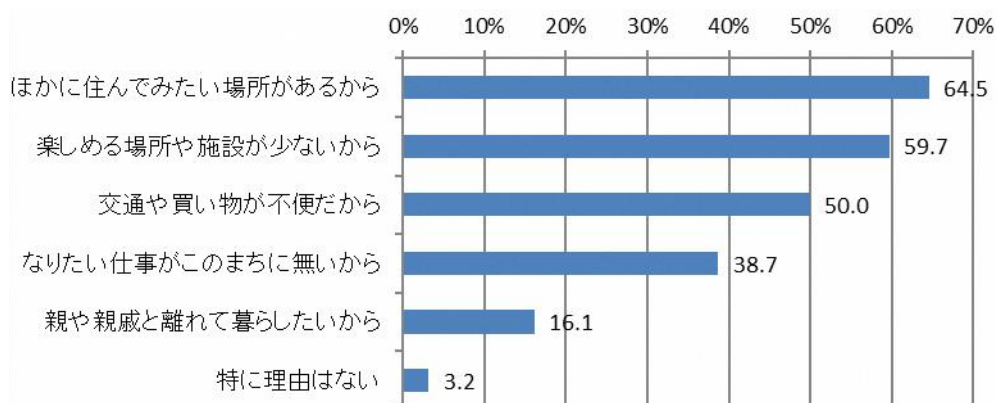
問 8 住みたい理由を教えてください。 < 当てはまるものすべてに○印 >

「このまちが住みやすいまちだから」が最も高く 64.0%となった。



問 9 住みたくない理由を教えてください。 < 当てはまるものすべてに○印 >

「ほかに住んでみたい場所があるから」が最も高く 64.5%となった。



■考察

「町の良いところ」については、「豊かな自然」と災害や犯罪が少ない「安全・安心な生活環境」といった点での評価が高くなっている。具体的には「自然に囲まれている」「360度山が広がる」といった平群町の特徴ある自然を捉えた意見や、地域の特産物が中学校の給食のメニューに取り入れられている等、地域のアイデンティティの形成につながっている意見もうかがえる。また、「笑顔溢れる町」「人の優しさ」といった意見もみられ、安全・安心な生活環境を裏付ける一因となっていることも考えられる。

一方で「町の良くないところ、不足しているところ」については、「道路や歩道の整備の遅れ」「公共施設の老朽化」や「勉強しやすい環境ではないこと」に対する不満が多くを占めている。自らが過ごす中学校を含め、中学生が求めているような施設整備が進んでいないことにより、町に「住みたくない」という回答が多数（49.6%）を占める結果につながっていると考えられる。

なお、「住みたくない理由」としては、「楽しめる場所や施設が少ないから（59.7%）」「交通や買い物が不便だから（50.0%）」が多くを占めているものの、「ほかに住んでみたい場所があるから（64.5%）」が最も多いことから、自らが暮らす町の不満について解消するだけでなく、他の町と比較できないような優れた魅力を発見し、愛着をより高めることで、「住みたくない」を「住みたい」という意向に転換させる可能性があると考えられる。

「これからどのようなまちになると良いか」については、「子どもたちが元気なまち（26.5%）」が最も多く、地域の中学生が町の将来像をこのように捉えていることについては、子育て世帯となる若年層が住んでみたいという環境づくり、次世代につながるまちづくりの実現に向けて期待できるところとなっている。